

## 教職員のコーナー

## 天賦の才

近藤 裕

もう十年以上も前のことです。ある中学校の陸上競技部の顧問だった私は、20代後半という若さも手伝って、部活動指導に熱中していました。当時の短距離走の世界記録保持者だったカール・ルイスやリロイ・バレルらのトレーニング研究論文などを読んで、自分の指導に生かせないかと躍起になっていたのも、この時期です。

幸運にも全国大会にも何度か選手とともに参加することができるようになり、女子砲丸投の選手を連れて全日本中学校総合体育大会に遠征したときのことです。その選手は、私が県大会では安心して試合を見ることができ、つまり県大会では楽に優勝ができる選手でした。当然、目標は全国大会の決勝進出でした。当時、私の県は県選手団をつくって全国大会に遠征するのが普通でした。県のトップクラスの選手ばかりなので、だれもがプライドと緊張感を撒き散らしていたのですが、そんな中にアッケラカンとして全く緊張感を感じさせない女子選手が一人混じっていました。練習中でも、よく笑い、ウォーミングアップのランニングではいつも最後尾。私は彼女を選手ではなく、マネージャーだと思いました。それほど、彼女は厳しい表情の選手達の中で妙に目立っていたのです。

試合当日、私の教え子は予想外の絶不調で、決勝どころか自己ベスト記録にも遠く及ばず、ガッカリしながら宿舎に帰ると、さっきまで試合をしていた競技場の様子がテレビに映っています。画面には女子の走高跳が映っていました。フィールドに残っている選手は1名のみ（これは他の選手はそのバーの高さまでたどりつけなかったことを意味します）で、バーの高さは軽く170センチを越えています。その高さも女子中学生としては、驚くべきことだったのですが、それ以上に驚きだったのは、彼女は他の選手のような陸上用のユニフォームではなく、学校の体操服上下（いわゆる、中学校の体育の時間の体操着です）を着て競技をしていたことでした。そして画面の中の彼女は綺麗なフォームで、170センチ以上のバーを軽く越えていきました。優勝で

す。全国一です。テレビに映った小さなガッツポーズをとって微笑む彼女。その選手が、私がマネージャーかと勘違いした彼女だと気付くまでに大した時間はかかりませんでした。

同じ県にこんな選手がいたことも知らなかった私は、その夜、関係者に彼女の事を聞くと、「知らないはずさ。あの子はバスケットボール部員だし、先日初めて出場した大会の記録は今日の記録よりも10センチ以上も低かったんだもの。まあ、陸上の練習を始めて1ヶ月だから当たり前かもしれないけどね。」と大笑いされました。

愕然としました。そして天才は本当にいるんだなと思いました。

男1人女1人の父親となった今、私には、自分の息子や娘に彼女のような才能があるとは思えません。ですが努力を積み重ねて才能豊かな人に負けない人に育ててほしいと願っています。実際はものすごく大変な事だと思いますが、それが親としての夢です。こんな夢を持つことは、単なる親バカなのでしょうね。



## 児童生徒数



学 年	男 子	女 子	計
小 1	1	1	2
小 2	2	2	4
小 3	5	4	9
小 4	2	4	6
小 5	2	3	5
小 6	1	0	1
中 1	1	1	2
中 3	2	2	4
計	16	17	33
12月24日現在		家庭数	26